

ピアネット・イルカ
つうかん
ODA通巻 : 1297

発行 社会福祉法人
 沖縄県身体障害者福祉協会
 編集人 NPO 法人沖縄県自立生活センター・イルカ
 住所 〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-4-1 (1F)
 単価 100円 (会費に含)
 TEL 098-890-4890
 FAX 098-897-1877

地震被災障害当事者の支援とエンパワーメント研修報告書

研修期間: 令和元年11月16日～令和2年2月6日

【事業の背景と必要性】

2015年4月25日、ネパールに大地震が襲い、カトウマンドウを含む 14 の郡で甚大な被害がもたらされた (ネパール大震災)。ネパール国内の障害者のうち 36名が亡くなり、約2,000人が被災したと言われているほか、全体で 22,000人を超える負傷者のうち、600人が脊椎損傷を負ったとされる。

提案団体では、2014年から全国自立生活センター協議会 (JIL) 九州ブロックのCILを中心に自立生活協会ネパールの障害当事者運動に対し、資金援助などを開始しました。そして2016年にJICA草の根の助成金で障害当事者による震災被災障害者のエンパワメントと主流化事業を実行しました。

これまでの経験で、障害のある人同士がお互いに話し合い励まし合うことで相互をエンパワメントする方法であるピア・カウンセリングや、障害をもった人が日常生活の様々な場面で必要となる技術や知識を体験的に獲得するとともに、社会的障壁の除去のための取り組みを実践するために、同じく障害を持つピアの力を借りて実施する自立生活プログラム (以下ILP) などがエンパワメントには非常に有効です。しかし、現状として重度障害者に対してこれらの支援や介助方法はネパールの行政や障害者団体には経験がなく、活動を続けていてもなかなか重度障害者は家から出ることができない状況があります。

2018年の事業の継続として、今回の事業は14年間ネパールで障害者の自立生活運動してきた障害当事者リーダー1名と、10年間ネパール障害者の生活をサポートしてきた介助者1名を3ヶ月沖縄に招聘し、沖縄の障害当事者との文化交流、重度障害者の介助方法や注意点、重度障害者と医療的ケアが必要な障害者の地域生活と必要なサポートや支援の方法について、ネパールと沖縄の双方の知識を深める交流を目指して研修を行います。

本事業を通し、ネパールからの研修生にとっては福祉先進国と呼ばれる日本からの技術支援を伴いながら、重度障害者の地域生活支援の取り組み手法のモデルケースとして示すことができ、今後沖縄の自立支援・障害者運動を担う若手当事者にとっては、ネパールの当事者からのエンパワメント、多文化の共生と理解を深め合うこと、制度をつくる過程などが見えることで知識だけに頼らない経験を得ることができます。

1. 沖縄の自立生活センターでの自立生活運動の実態と障害当事者主体で制度を組み立てるための学習について

今回の研修は沖縄県内三つの自立生活センターで研修を受けました。県内の自立生活センターは地域交流や障害があっても無くとも共に暮らしやすいために様々の活動とイベントを開催し、研修生も一緒

にインクルーシブの社会作りのため活動を体験しました



はつ くるまい す たいけん
初の車椅子体験さあ～

みんな、
上手
じょうず

な ご しょうがっこう くるま たいけんかつどういっしょ さん か
名護の小学校で車いす体験活動一緒に参加しました

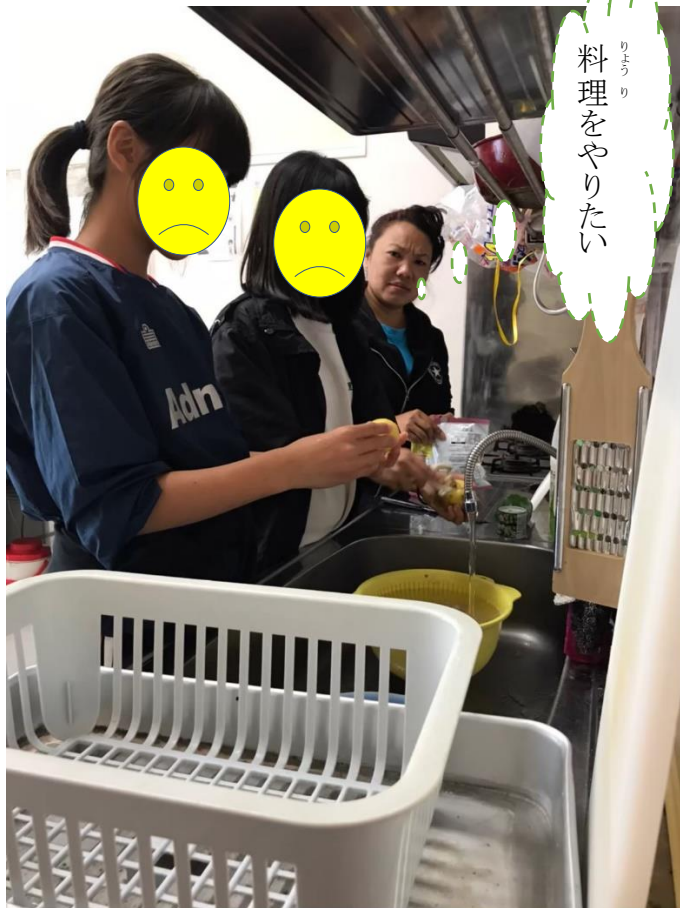


な は じりつせいかつ せいしんしょうがいしゃ ち いきせいかつ し えん けんしゅう
那覇自立生活センターで精神障害者地域生活の支援について研修

かいしゃ いらい
バス会社から依頼きたら、
けんしゅう おこな
研修も行っているだっ



な は うんてんしゆ む けんしゅう さん か ようす
那覇バスターミナルで運転手向けの研修を参加した様子



ちゅうがくせい りょうり じしゅう ようす
インクルーシブの中学生と料理自習をした様子



スロープ
おお
大きいね

おお っく
大きく作っ
た

アパートをバリアフリー改装した所で見学
かいそう ところ けんがく



スゴイですねっ

ひとりぐ れんしゅう しょう しゃ ほうもん ようす
一人暮らし練習している障がい者のアパートを訪問した様子



とうじしゃ じっか
当事者の実家についてきた！！

しょうがつ いへや しょうがいとうじしゃ じっか ほうもん ようす
正月に伊平屋で障害当事者の実家訪問した様子



イヤ、イヤ

うまいねっ

しょうがつ いへや しょうがいとうじしゃ じっか ほうもん ようす
正月に伊平屋で障害当事者の実家訪問した様子



いへや じま しょうがいとうじしゃ じっか ほうもん ようす
伊平屋島、障害当事者の実家に訪問した様子

2. アクセス視察と沖縄文化の体験

ネパールでは観光事業を中心している国なんですけど、インフラを全然整備していない状態で一般人でも社会参加を難しいと感じています。沖縄の研修では様々の施設訪問と観光地のバリアフリーチェックを通じて誰でも使いやすい環境づくりの大事さを理解しました。

琉球村の見学と琉装体験に通じて沖縄の文化と歴史は分かるようになりました。



ツーツョットだ(笑)



琉装体験体験の様子

琉球村で見学の様子



ぜんいんしゅうごう
全員集合！

しゅりじょう

首里城でのバリアフリーチェック

こくさいどお

国際通りバリアフリーチェックの様子

ちゅら うみすいぞくかん

美ら海水族館バリアフリーチェックの様子



たの
楽しい

たの
楽しい



ツーショット



ヌルヌルするねっ

ネパール料理を実際に作り、言葉や文化・風習などのちがい、最近のネパールの様子なども聞きながら相互交流を深めた。

制度ではなく文化として階級が残っていて、それが当たり前前のネパールとないことが当たり前前の沖縄で他の文化を知るきっかけになった。

当たり前前にある事柄に対しても、制度や文化が構築されていくことを改めて理解し、またなぜそのようになったかも考えていくことができた。

ネパール家庭料理を皆で食べてみました

最後は研修の報告会を開催し、日本語を全然話せない時から研修を受け、最後は日本語で発表をできました。



ありがとうございます。

